

◆日本史◆ 科目別講評

(1)出題方針

本科目出題の基本方針については、例年と同様に以下の通りである。

① 高等学校教科書『日本史探究』の範囲を逸脱しないこと。

教科書の範囲とは、各出版社の『日本史探究』全体を対象とし、その本文はもとより、脚注、口絵・図版・各種の図表及びその解説、史料、年表など、教科書に盛り込まれた内容全体を意味する。

ただし、史料や図表、問題のリード文などについては教科書以外からも出題する。また、教科書への掲載頻度が低い用語はできるだけ避けるが、多面的な歴史理解を求める必要から、やや難しい歴史用語やニュースなどに頻出する時事用語、高校生レベルで身につけていると思われる基本的な語句を使用することもある。しかし、いずれの場合でも、教科書の知識で正答を導き出せるように配慮している。

② 当該年度内の問題全体の中で、時代や分野において偏りがないように出題すること。

この基本方針にもとづいて、本年度は、

(102)古代～中世・社会経済(57点)／近世・外交(45点)／近現代・政治(48点)

(103)古代・政治(51点)／中世・社会経済(45点)／近世～近現代・文化(54点)

(104)古代～中世・政治(60点)／近世・社会経済(45点)／近現代・外交(45点)

(105)古代～中世・外交(60点)／近世・文化(45点)／近現代・社会経済(45点)

(106)古代・文化(45点)／中世・外交(45点)／近世～近現代・政治(60点)

(107)古代～中世・文化(57点)／近世・社会経済(45点)／近現代・外交(48点)

という時代と分野の枠組み・バランスから出題することとした。

(2)解答状況および解説

各学部・学科別の受験者・合格者の平均点は「受験者・合格者の科目別平均点」(p.10)を参照してほしい。本年度の諸日程のうち、(103)が日本史を選択した受験者全体の平均得点率 58.2%・合格者全体の平均得点率 71.8%とやや低くなった。他の日程ではおおよそ、受験者全体平均得点率で 66～75%、合格者平均得点率で 79～86%の幅に収まっている。

以下、日程別の大問ごとの全体傾向を、合格者の平均得点率で示すと、(102)〔Ⅰ〕82.6%〔Ⅱ〕84.4%〔Ⅲ〕79.3%、(103)〔Ⅰ〕75.8%〔Ⅱ〕64.6%〔Ⅲ〕74.0%、(104)〔Ⅰ〕81.5%〔Ⅱ〕77.5%〔Ⅲ〕79.3%、(105)〔Ⅰ〕76.3%〔Ⅱ〕91.3%〔Ⅲ〕89.1%、(106)〔Ⅰ〕70.2%〔Ⅱ〕92.2%〔Ⅲ〕79.1%、(107)〔Ⅰ〕91.0%〔Ⅱ〕75.3%〔Ⅲ〕90.4%である。受験生にとってのおおよその難易度が知れよう。

受験者全体の動向でもほぼ同様で、(103)〔Ⅱ〕中世の社会経済史、(106)〔Ⅰ〕古代の文化史において平均得点率が 6 割を切っている。合格者と受験者全体との間の平均得点率に最も大きな差が生じたのも、(103)〔Ⅱ〕中世の社会経済史であった。ただしこれらの大問も、一部に細部にわたる出題を含むとはいえ、基本的には何らかのかたちで教科書で取り扱われている内容である。

個別の設問についての記述解答では、例年と同じく、正確な歴史用語・漢字表記を習得していないための誤答や、設問の指示を見逃す誤答(文字数指定、空欄の文言指定など)も多くみられた。合否を左右するのは、全受験者の正答率が低い設問ではなく、比較的容易な設問群での着実な得点であるため、用語記述の際には細心の注意が必要である。

(3)受験生へのメッセージ

受験上の助言として心がけてもらうことを挙げれば、以下のとおりである。

① 出題方針で述べたように、教科書の範囲を大きく逸脱することはないので、まずは教科書を熟読して、基本的な内容を理解することが根本である。また、本学の問題は、歴史用語を記述する問題と記号選択の問題に大別され、ど

ちらかといえば記述問題の方で得点差が大きくなる傾向があるので、歴史用語を漢字で正確に書くこと、設問の指示に注意することなどに、日頃から心がけて学習してほしい。

- ② 個々の知識を大きな歴史の流れの中で理解することが大切である。それによって知識を系統立てて習得できるからである。その際に、時代別だけでなく様々な分野史、たとえば政治史や社会経済史・対外交渉史などを通史的に学習しておくことも有効な方法であろう。対外交渉史では、欧米との関係だけでなく、アジアとの関係について問うことも多い。また、これも出題方針で述べたことだが、各分野を満遍なく問うため、教科書の分野別記載ページ数比率よりもやや文化史や対外交渉史が多くなる傾向にあることにも留意しておきたい。
- ③ 日本史は、現在の日本列島のどこにでもその手がかりを見つけることが可能であり、各地の博物館や美術館などでは多様な文化遺産を目にすることもできる。マスコミなどでとりあげられる年中行事や文化財、発掘調査に関わる情報なども、歴史を身近に感じるきっかけになるだろう。日頃の生活の中で、常に歴史との関わりを意識し、また歴史への関心を育てていただくよう切望する。

◆日本史◆ 出題の意図

102	出題の意図
〔Ⅰ〕	平安時代前後の社会・経済について、基本的事項の確認をおこなった。
〔Ⅱ〕	近世初期から幕末までの対外交渉史について、基本史料などをもとに理解度を確認した。
〔Ⅲ〕	昭和期の政治史に関して、戦局や戦後の占領政策など諸事項の理解を問うた。
103	出題の意図
〔Ⅰ〕	古代の葬制や政治制度について、基礎的・具体的な事項を確認した。
〔Ⅱ〕	室町・戦国期の一揆に関する史料の読解とともに、中世の社会経済についてさまざまな側面から問うた。
〔Ⅲ〕	明治期のメディアに関する文章をもとに、近世から近代の文化について理解度を確認した。
104	出題の意図
〔Ⅰ〕	室町期までの各時代の史料の読解力と、政治史に関する諸事項の理解を問うた。
〔Ⅱ〕	近世の経済史に関して、金融政策や諸産業の展開など基本的な理解について確認した。
〔Ⅲ〕	明治・大正期の対外交渉史について、基礎的事項の確認をおこなった。
105	出題の意図
〔Ⅰ〕	古代の外交と国際関係について、幅広い観点から基本的事項の理解を問うた。
〔Ⅱ〕	近世の文化や教育制度に関して、基礎的な事項の理解度を確認した。
〔Ⅲ〕	近代の経済史について、諸産業の発達や財閥の形成に関する諸事項の確認をおこなった。
106	出題の意図
〔Ⅰ〕	飛鳥・奈良時代に関する文章をもとに、古代の文化史について基礎的な理解度を確認した。
〔Ⅱ〕	中国・朝鮮半島や北方世界との関係など、さまざまな観点から中世の外交・交易について問うた。
〔Ⅲ〕	江戸初期から明治期を中心に、政治制度や地方行政に関する基本的事項の確認をおこなった。
107	出題の意図
〔Ⅰ〕	古代・中世の文化について、仏教史や思想史の側面から基礎的理解を問うた。
〔Ⅱ〕	近世史料の読解力を問うとともに、社会経済史に関する理解度を確認した。
〔Ⅲ〕	第一次世界大戦から満洲国成立までの外交史について、基礎的事項の確認をおこなった。